

昭和館館報

平成25年度

口 絵		III 関連情報提供事業	
ごあいさつ	1	1 運用管理	17
フロア構成	2	(1) システム運用管理	17
年間主要行事	3	(2) データベース運用管理	18
平成25年度事業概要		(3) ホームページ運用管理	18
I 展示事業		2 オーラルヒストリーの制作	19
1 常設展示	4	3 海外資料調査の実施	19
(1) 常設展示の概要	4	IV 啓発広報等事業	
(2) 展示替え	4	1 広報活動	20
(3) 展示資料の入れ替え	5	(1) 広報資料の作成及び発送	20
2 巡回特別企画展の開催	6	(2) 広報と掲示及び掲載	20
(1) 第22回巡回特別企画展	6	(3) 子ども霞ヶ関見学デー	20
「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」		(4) 第12回昭和館見学作文	
(2) 第23回巡回特別企画展	6	コンクール	21
「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」		(5) 第6回昭和館高校生ポスター	
3 貸出キット	7	コンクール	21
4 紙芝居定期上演会	8	2 「昭和の暮らし研究」の刊行	22
5 教員のための博物館体験	8	3 展示資料の貸出	23
6 実物資料の収集と保存	9	4 昭和館運営専門委員会の開催	24
(1) 実物資料の収集	9	5 昭和館運営有識者会議の開催	24
(2) 実物資料の保存と補修	9	6 インターシップ	25
(3) 実物資料の貸出実績	9	7 小・中学校用展示案内	
7 博物館実習	9	DVDの配布	25
II 図書映像資料等閲覧事業	10	8 関係施設等連携会議の開催等	26
1 図書文献関係	10	V 特別企画展等の開催及び概要	
(1) 運用管理	10	1 「知ってるかな？戦中の暮らし	27
① 閲覧室及び書庫の管理	10	～子どもたちの一日～」	
② レファレンス・サービス		2 「夢と希望と困難と	
(参考調査業務)	10	～昭和の働く女性～」	29
③ 利用ガイドの発行	10	3 「昭和の日」記念イベントの開催	30
④ 展示関連図書の公開と		4 「GHQカメラマンが見た戦後の日本	
参考図書リストの配付、		～復興にむけて働く人びと～」	31
読書案内	10	5 「さくら満開	
⑤ ホームページ	11	～絵はがきと写真に見る～」	32
⑥ 蔵書点検	11	6 資料公開コーナー	32
⑦ 利用状況	11	参 考	
(2) データ管理	13	1 入場者状況の推移	
① 収蔵図書のデータ管理	13	(平成11年度～25年度)	34
② 目次データ入力	13	2 平成25年度利用者実績	35
(3) 保存管理	13	3 常設展示室入場者数	35
(4) 業務研修	13	4 来館団体御芳名	36
2 映像・音響関係	14	5 第12回昭和館見学作文コンクール	
3 ニュースシスター	14	厚生労働大臣賞受賞作品	37
4 収蔵資料	15	6 第6回昭和館高校生ポスター	
(1) 図書資料の収蔵状況	15	コンクール入賞作品	38
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	16	7 施設概要	39
		8 平成25年度寄贈者御芳名	41

口 絵
外観写真





7階 常設展示室「学童疎開」



6階 常設展示室「体験コーナー」



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター



紙芝居定期上演会
(毎月第4週日曜日)



特別企画展
「知ってるかな？戦中の暮らし～子どもたちの一日～」
(平成25年7月27日～9月1日)



特別企画展
「夢と希望と困難と～昭和の働く女性～」
(平成26年3月15日～5月11日)



巡回特別企画展 平成25年10月2日～10月14日 (熊本展)
伝えたい「戦中・戦後」の暮らし
熊本県立美術館分館 展示室3



巡回特別企画展 平成26年1月26日～2月3日 (栃木展)
伝えたい「戦中・戦後」の暮らし
栃木県総合文化センター 第四ギャラリー

ご あ い さ つ



昭和館では、国民が経験した戦中・戦後（昭和10年頃から昭和30年頃まで）の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を後世代の人々に伝える国立の施設です。平成11年に設立以降、入館者総数も380万人（平成26年3月末現在）を超えるに至りました。これも、ひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、平成25年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

主な事業として、常設展示室、映像音響室、図書室、昭和館懐かしのニューシアターにより、必要な情報提供等を行ったほか、春と夏の特別企画展、地方での巡回特別企画展、2階広場での写真展（春と秋）、紙芝居の定期上演会、子供霞ヶ関見学デー、小・中学生作文コンクール、高校生ポスターコンクール、紀要「昭和のくらし研究」発刊、オーラルヒストリー（体験証言）制作、貸し出しキッドの充実などに取り組んで参りました。

また、来年戦後70周年を迎えるにあたり、平成27年1月に展示替えを予定しており、その展示替えの準備を進めて参りました。

なお、しょうけい館・平和祈念展示資料館との連携として「夏休み3館めぐりスタンプラリー」を初めて実施いたしました。

終わりに、今後とも後世代、特に若い世代に戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、様々な観点からの企画展の開催と種々な情報提供等が出来るよう、魅力ある運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年10月

昭和館

館長 羽毛田 信吾

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

ニュースシアター・受付・総合案内

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

平成25年	
3月20日～ 4月14日	写真展を開催 「桜・さくら・サクラ」
3月16日～ 5月12日	特別企画展を開催「誕生100周年・没後30周年記念 中原淳一の生きた戦中・戦後～少女像にこめた夢と憧れ～」
4月27日～ 5月 3日	「昭和の日」記念イベントを開催
5月26日～	紙芝居定期上演会（隔奇数月第4日曜日に開催）
6月12日	第4回関係施設等連携会議を開催
6月18日	平成25年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
6月24日～ 6月26日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
7月20日～ 9月 1日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」
7月27日～ 9月 1日	特別企画展を開催 「知ってるかな？戦中の暮らし～子どもたちの一日～」
8月 7日～ 8月 8日	「子ども霞ヶ関見学デー」
10月2日～10月14日	巡回特別企画展を開催（熊本県にて） 「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」
11月15日	第5回関係施設等連携会議を開催
11月1日～12月23日	写真展を開催 「GHQカメラマンが見た戦後の日本 －復興にむけて働く人びと－」
平成26年	
1月18日～ 1月20日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
1月26日～ 2月 3日	巡回特別企画展を開催（栃木県にて） 「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」
2月23日	平成25年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
3月 1日～3月 4日	映像・音響室の資料整理を実施（休室）
3月 1日～3月14日	図書室の資料整理を実施（休室）
3月 1日	紀要『昭和の暮らし研究』（第12号）を刊行
3月14日	第13回昭和館運営有識者会議を開催
3月15日～ 5月11日	特別企画展を開催 「夢と希望と困難と～昭和の働く女性～」
3月21日～ 4月13日	写真展を開催 「さくら満開－絵はがきと写真にみる－」

平成25年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等の事業を開催した。

(特別企画展等の内容は別項Vに掲載)

1 常設展示

(1) 常設展示の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示替え

平成25年度及び26年度の2ヶ年で、第6回常設展示室展示替えの計画等を行い、設置工事を平成27年1月に実施する。

展示替え内容

コーナー名	内 容	実施年度
1、展示改修 (1) 体験ひろば		
(ア)「空襲被害地図」 のパソコン利用	現行のパネル「空襲被害地図」について、パソコンを利用することで様々な情報を提供できるようにし、文字や写真を大きく見せる。	平成25年度ソフト制作 平成26年度設置工事

(イ)「和男君の防空探検」ソフト改修	操作性を向上させるためにパソコンソフトの改修を行い、「台所」「防空壕」など和男君が行動できる範囲を広げる。	平成25年度ソフト制作 平成26年度設置工事
(ウ)「バーチャルこれなあに？」ソフト改修	タッチパネルを利用し、資料点数を10点追加する。合計30点の資料を紹介する。	平成25年度ソフト制作 平成26年度設置工事
(エ)「調べてみよう」(所蔵データベース)ソフト改修	タッチパネル方式を導入することにより画像の拡大縮小がスムーズにできる。	平成25年度ソフト制作 平成26年度設置工事
(2) 展示方法の改善		
(ア) 防空壕体験コーナー改修	B29の大型写真を防空壕の上に展示することで、より臨場感のある演出を行う。	平成25年度一部制作 平成26年度設置工事
(イ) 各ブースでの情報提供	「展示解説」「ニュース映画」「主な展示資料」「用語解説」の情報を詳しく閲覧できる。	平成25年度ソフト制作 平成26年度設置工事
2、新規事業		
(1) 体験ひろば 米つき体験	配給された玄米を家庭で精米する作業について学ぶコーナーを設ける。実際に、ガラス瓶に差した棒を上下させる体験をしながら、映像を通してどれだけの玄米がどのくらいの時間で精米できたかなどを学べる。	平成26年度制作・設置工事
(2) 7階エレベータ前	トリックアートの演出を利用することで、エレベータを下りたところから来館者が戦前にタイムスリップしたようなインパクトを与える	平成26年度制作・設置工事

(3) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。平成25年度は6月24日(月)から26日(水)まで、平成26年1月18日(土)から20日(月)の各3日間、常設展示室を休室して資料交換と清掃作業を行った。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

平成25年度は、次の通り実施した。

(1) 第22回巡回特別企画展 「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」(熊本展)

開催期間：平成25年10月2日(水)～10月14日(月)
会場：熊本県立美術館分館 展示室3
共催：熊本日日新聞社
協賛：日本遺族会第5ブロック(熊本県遺族連合会ほか)
後援：熊本県 熊本県教育委員会 熊本市 熊本市教育委員会 NHK熊本放送局 熊本朝日放送 くまもと県民テレビ 熊本放送 テレビ熊本 JCNくまもと FM熊本 FM791
来場者数：6,565人(約548人/1日)

(2) 第23回巡回特別企画展 「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」(栃木展)

開催期間：平成26年1月26日(日)～2月3日(月)
会場：栃木県総合文化センター 第四ギャラリー
協賛：日本遺族会第2ブロック(栃木県遺族連合会ほか)
後援：栃木県 栃木県教育委員会 宇都宮市 宇都宮市教育委員会 下野新聞社 朝日新聞宇都宮総局 毎日新聞宇都宮支局 読売新聞宇都宮支局 産経新聞社宇都宮支局 NHK宇都宮放送局 株式会社とちぎテレビ 株式会社栃木放送 株式会社エフエム栃木
来場者数：3,335人(約371人/1日)



熊本展



栃木展

巡回特別企画展

3 貸出キット

全国の各市町村教育委員会や都道府県遺族会事務局のほか、「昭和館だより」の発行に併せ全国約16,000の小・中学校、高等学校にポスターとチラシを送付するなど広報に努め、更なる利用を呼びかけた。

なお、平成25年度の貸出状況は、次の通りである。

<貸出先>

(学校) 21カ所

埼玉県立伊奈学園中学校/北広島町立千代田中学校/愛知県豊橋市立二川小学校/飯田市立丸山小学校/宇和島市立下灘小学校/越谷市立千間台小学校/座間市立相模大野小学校/神戸市立雲中小学校/横浜市立上山小学校/銚子市立椎柴小学校/八王子市立別所小学校/品川区立芳水小学校/綾瀬市立綾北小学校/仙台市立遠見塚小学校/富津市立大貫小学校/台東区立石浜小学校/南足柄市立福沢小学校/八王子市立川口小学校/座間市立相模が丘小学校/東京都立総合工科高等学校/日進市立日進中学校

(地方自治体) 18カ所

横須賀市市民部市民生活課/妙高市役所/川口市役所総務部総務課/八王子市/相馬市/赤穂市総務部行政課/海老名市/豊橋市平和教育研究委員会/佐賀市総務部総務法制課/羽村市企画総務部企画政策課/下丸子図書館/東村山市役所市民部生活文化課/八潮市まちづくり企画部人権・男女平等課/愛知県犬山市健康福祉部福祉課/大和市役所国際・男女共同参画課/西多摩郡瑞穂町/多摩市役所/

千代田区国際平和・男女平等人権課

(一般団体) 7カ所
綾瀬市遺族会/雲南市遺族会/わかくさ保育園/河内長野市人権協会/
愛川町遺族会/社会福祉人吉祥福寿会特別養護老人ホーム吾亦紅/
静岡県浜松市雄踏町遺族会

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居とワークショップの要素を取り入れた体験型の上映会を、紙芝居師の梅田佳声氏ほかの演者により実施した。

なお、入場者の状況は以下の通りである。

上演	月	入場者
平成25年	3月	190人
	5月	77人
	7月	125人
	9月	99人
	11月	96人
平成26年	1月	106人
合計		693人

5 教員のための博物館体験

学校と博物館の連携を図ることを目的に、新たに小・中高校の教職員を対象とした博物館体験の日を実施した。

開催日：平成25年8月6日（火）

内容：博物館が所蔵する学習資源を知り、学校教育に活用されるよう館内施設の見学や貸出キットの利用体験を行った。

参加者：私立中学高等学校教諭 1名
公立小学校教諭 1名

6 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

平成25年度における実物資料の収集は、主に個人からの寄贈によるもの1,844点、購入によるもの831点であった。

収蔵資料数は次表の通りである（平成26年3月末現在）

寄 贈 資 料	34,479点
購 入 資 料	11,623点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
合 計	49,345点

(2) 実物資料の保存と補修

平成25年度末までに収集した実物資料は、全て燻蒸処理を行い、整理、分類した上、地下1階の資料収蔵室で保管を行っている。

なお、破損・汚損の激しい紙製資料等約30点に対して補修を行った。

(3) 実物資料の貸出実績

平成25年度における館外への資料貸出は、2件7点であった。

- ・埼玉県立平和資料館 ちらし（餓死対策国民大会）他、計6点
- ・憲政記念館 ポスター「婦人の皆様へ」1点

7 博物館実習

実習期間：平成25年8月10日（土）～8月16日（金）

実 習 生：1名（昭和女子大学）

実習内容：施設見学、収蔵庫清掃、実物資料整理作業（計測・台帳記載等）、記録写真の整理、特別企画展におけるイベントの補助業務等

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等を閲覧に供している。

閲覧室には座席30席のほか、所蔵資料や『戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム』等のデジタル情報及び『文藝春秋』等の雑誌データベースを閲覧できる端末を4台、研究コーナーに2台設置し、タッチパネルとキーボードの両方で使えるようにしている。またROM検索用端末2台と国内の類似施設情報が閲覧できる端末1台を設置し、来館者の利用に供している。

蔵書の中でも利用頻度が高い基本資料や総合的な内容をもつ資料を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

開架図書は比較的利用頻度の高いものは4階書庫で、その他は地下書庫に収蔵している。劣化の激しい資料は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは寄贈資料の一部を随時展示し紹介している。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

平成25年度のレファレンス・サービスは513件、1日平均2件で、特に8月の夏休み期間が多かった。

書籍の所蔵確認だけでなく、考証に関するレファレンスも多く、調査に時間を要するが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積して、同様のレファレンスや利用ガイドなどに反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて蔵書を紹介したり、利用・検索の方法を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示内容に即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

平成25年度は夏と春の特別企画展及び資料公開コーナーでの展示内容などに関連した図書・雑誌の公開を行った。

7月23日（火）から9月8日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に、「夏休み宿題・研究資料リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。また、同期間、昨年度より開始した「夏休みワークシート」（学習問題プリント）を、「学校生活」をテーマにして作成し、前年度作成した「疎開」とともに配布し、調べ学習の実践を推進した。

9月10日（水）より29日（日）の間、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した「シベリア抑留を描く一二人の画家展」に関連して、シベリア抑留関係資料のコーナーを設けるなど、館内外との協力・連携をはかった。

今年度も、図書室において大人から子どもまでを対象に「図書室員が読んだ本」、「書評から」と題して話題になった図書などを定期的に紹介した。

⑤ ホームページ

図書室では、図書データを毎月更新している。

図書・雑誌資料の一部を紹介した開架書架ごとに紹介したり、「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。

「図書室員が読んだ本」などで紹介する本も併せて掲載している。

蔵書検索ページではことば検索ができるようにしているほか、利用者からのレファレンス内容をQ&A形式で公開している。

また、資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

⑥ 蔵書点検

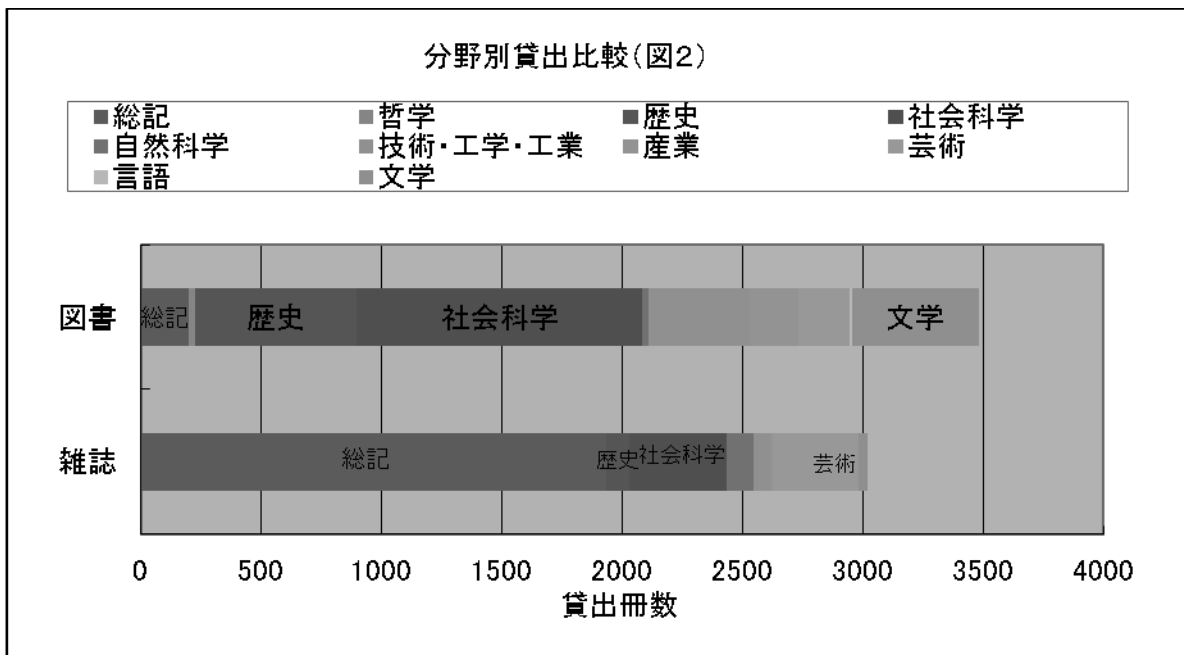
平成26年3月1日（土）から3月14日（金）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。開架図書及び閉架図書を重点的に点検し、破損が著しい資料の修理や製本を行った。また、資料の増加にともない、蔵書の移動を行った。

⑦ 利用状況

平成25年度の図書室入室者及び閉架利用状況（月ごとの変遷）は図1、閉架資料の分野別貸出状況は図2のとおりであった。



- ・図書室入室者数の1日平均は75名前後であった。
- ・図書室入室者数を月別で見ると、11月から2月にかけて小中学生の利用者が非常に多く、次いで夏期の特別企画展開催中の8月が多い。
- ・閉架資料の利用者数、利用冊数は、5月が最も多く、次いで8月、11月となっている。



※「総記」とは、週刊誌及び娯楽誌など一般雑誌のことをいう。

- ・ 図書の利用では社会科学と歴史分野の利用が多く、次いで文学となっている。
- ・ 社会科学分野の内訳としては、戦争関連の基本的資料、軍事・部隊史関係に加え、戦前から戦後の教科書類の利用が多かった。
- ・ 雑誌は例年どおり「総記」の利用が目立ち、少年少女、女性向け雑誌の利用が突出している。

(2) データ管理

① 収蔵図書のデータ管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。平成25年度は2,040冊の書誌データの入力と装備を行った。

② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。平成25年度は2,454件の目次データ入力を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、資料を補修しつつ利用の拡大を図っていくことが今後の課題である。平成25年度は49冊の製本及び合本をし、174冊の破損本を修理した。

なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供など図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加した。平成25年度は、日本図書館協会主催の第99回全国図書館大会（11月開催：福岡県福岡市）などに出席し、業務の向上と他館との情報交換に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、戦中・戦後の国民生活に関する映像・音響資料等を検索端末を通じて来館者に提供している。検索端末15台を設置し、うち2台は多人数で同時に利用が可能な団体専用ブース、1台は当館類似施設の各ウェブサイトを紹介する専用端末、12台は映像・音響資料を検索する端末となっている。

上記の運用のほかに、パソコン操作が得意でない来館者も利用できることを目的に、「国民生活」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」「世間を騒がせた出来事」のニュース映画を簡単に閲覧できる検索コーナーやSPレコードの一部を試聴できるコーナーを設け、その順調な運用に努めている。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画を毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」は、平成25年度において208作品を上映し、多くの来館者から好評を得ている。

4月27日(土)から5月3日(金)にかけて「昭和の日」の記念事業として、昭和館オリジナル作品「灼熱の炎の中で～空襲と人びと～」を通常の上映に加えて特別上映したほか、9月12日(木)から9月16日(月)にかけて平和祈念展示資料館が九段生涯学習会館において「シベリア抑留を描く－2人の画家展－」を開催したのにもとない、シベリア抑留者の帰国関係のニュースが盛り込まれているニュース映画を特集して上映した。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

平成25年度は、前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や少年少女雑誌・児童向け図書などを中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。(平成26年3月末現在)

国民生活関係図書	51,384冊
戦争に関する基本的図書	18,057冊
独自資料	35,980冊
その他基本図書	11,122冊
合計	116,543冊

<平成25年度の主な受入資料の内訳>

- | | |
|--|--------|
| ○ 国民生活関係 | 1,943冊 |
| ・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等
『焦土からの再生』『都民女性の戦後50年』『大東京案内』
『戦後の生き抜いた妻たちの証言』『家計調査要綱及関係法規』等 | |
| ○ 戦争に関する基本的図書 | 493冊 |
| ・ 太平洋戦争関連の基本文献、欧米等外国の公刊戦史、部隊史、戦争関連の体験記等
『太平洋戦争下の大湊警備府』『未解決の戦後補償』
『太平洋戦争開戦過程の研究』『推進員の活動状況』等 | |
| ○ その他 | 483冊 |
| ・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等
『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等 | |
| ・ 定期購読誌
『現代用語の基礎知識』『中央公論』『サライ』『暮らしの手帖』等 | |
| ・ 辞典・目録等の参考図書
『日本統計年鑑』『図書館年鑑』等 | |

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。収蔵数は次表の通りである。(平成26年3月末現在)

○ 動画資料 (ムービー)	
・ 米国資料館から入手	1,034 作品
・ 米国個人から入手	33 作品
・ 豪州国資料館から入手	11 作品
・ 英国から入手	5 作品
・ 国内で入手	2,281 作品
合 計	3,364 作品
○ 静止画資料 (写真)	
・ 米国資料館から入手	5,734 枚
・ 米国個人から入手	2,281 枚
・ 豪州国資料館から入手	368 枚
・ 英国から入手	233 枚
・ 国内で入手	36,890 枚
合 計	45,506 枚
○ 音響資料 (SPレコード)	
・ 国内で入手	8,438 枚
・ 寄託資料	約 35,000 枚
合 計	約 43,438 枚

<平成25年度の主な受入資料の内訳>

○ 資料の購入	
・ 記録映像	
日本ニュース	44 作品
中日ニュース	71 作品
○ 資料の寄贈	
・ 記録写真	23 枚
・ 記録フィルム	42 作品
・ 音響資料 (SPレコード)	79 枚

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料、実物資料の情報、②雑誌、資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内137カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館とデータベースの提携を行っており横断検索が可能である。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌など）及び類似施設等の関連情報を提供している。来館者が様々な条件から資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。

平成25年度の各データベースへのアクセスカウントをまとめたのが次表である。アクセス件数は月平均約25,530件で、多くの来館者に利用されている。

	写 真	映 像	音 響	図 書	雑 誌	個別DB	月別合計
平成25年4月	7,941	2,667	2,614	2,522	1,986	364	18,094
5月	10,085	3,741	4,368	3,156	1,720	597	23,667
6月	7,290	3,437	3,868	1,843	1,146	427	18,011
7月	7,413	3,442	2,728	3,310	1,854	437	19,184
8月	9,266	5,171	3,309	2,636	1,822	678	22,882
9月	10,159	3,155	2,687	1,779	1,061	437	19,278
10月	7,442	3,391	3,298	1,666	1,942	396	18,135
11月	25,222	4,800	3,774	2,462	1,393	925	38,576
12月	26,004	5,164	4,383	2,352	1,108	935	39,946
平成26年1月	24,814	5,390	3,629	2,560	1,364	1,522	39,279
2月	16,475	4,779	3,760	2,186	1,778	1,124	30,102
3月	10,504	2,975	3,075	1,286	617	767	19,224
合 計	162,615	48,112	41,493	27,758	17,791	8,609	306,378

(2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

○ 収蔵図書・雑誌目次情報（総合データベース）

収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てでテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。

○ 収蔵映像・音響資料情報（総合データベース）

収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料（SPレコード）を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。

平成24年度は、進駐軍として日本に滞在していたオーストラリア軍が昭和20年代に撮影した写真、および昭和10～30年代のニュース映画などを閲覧できるようにした。

○ デジタル図書・デジタル雑誌（個別データベース）

昭和館で独自に開発したデータベースで、図書は『大衆文化事典』『日本生活図引』をそれぞれ検索でき、雑誌は『中央公論』『文藝春秋』『婦人公論』『写真週報』『時事年鑑』『放送ニュース解説』『改造』が統合され、データベース化されている（『改造』は継続中）。各資料は直接画面に内容が表示される。各雑誌間では横断検索が可能である。

○ 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム（個別データベース）

防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

(3) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。
平成25年度のアクセス数は次のとおりであった。

・平成25年度	119,210件
・平成25年度月間平均	9,935件
・開館時からの累計	2,074,938件

内「キッズナビ」へのアクセス数

- ・平成25年度 18,029件
- ・平成25年度月間平均 1,502件
- ・平成18年（導入時）からの累計 140,068件

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年引き続き実施した。

平成24年度は、「戦没者への遺族の思い」を中心に、勤労働員や空襲の体験など、8名の証言（8作品）の収録を行った。

タイトル	証言者
「焼け跡からの出発」	鈴木 喬
「郡山空襲で助かった命 平和の願い」	佐藤 安太
「夫の戦死」	谷口 ミネコ
「母と共に働き続けた戦後」	永原 三千年
「家族で助け合った暮らし」	中村 緋佐子
「シベリアに眠る父を訪ねて」	皆川 潔
「抑留中に亡くなった兄の遺骨の帰還を待つ」	澤野 寛
「父の島 ミレー島へ」	坂本 俊文

3 海外資料調査の実施

平成25年度には、イタリア フィレンツェのヴィスー図書館で日本関係の写真、ローマのルーチェ財団で映像資料の所在を確認した。今後、特別企画展や映像・音響室などでの活用を目的に計画的な収集を検討していく。

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館等に配付している。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知を図っている。

また、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」20号を7月に新たに学校側から許可を得た都内100校の小・中学校に対して全校生徒数の送付等を行い、更に1都3県の平成24年度来館校316校に対して、各100部ずつ送付して生徒への配付をお願いし、夏休み期間中の家族での来館を促すとともに、11月には「昭和館だより」21号を送付し、社会科見学等の学校行事として来館の促進を図った。

なお、その他の小・中学校及び1都3県の高等学校に対しては、11月に「昭和館だより」20号・21号を送付し当館の周知を図ることに努めた。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館の事業内容のPRのために、東京メトロ九段下駅4出口付近、東西線ホームに加え新たに半蔵門線ホームに電飾掲示板を設置している。特別企画展等の際には、都営新宿線の車内に、窓上ポスターを掲示したり、また、新たに九段郵便局等にポスターを掲示する等PRに努めている。

なお、郵便局の利活用については、巡回特別企画展の際、開催市の郵便局にも、ポスターを掲示している。その他、都営地下鉄「いっとく」、東京メトロ「ちか旅」、沿線だより及び複数のガイドブック、千代田区区報等に当館の紹介記事を掲載している。

(3) 子ども霞ヶ関見学デー

文部科学省主催で開催している「子ども霞ヶ関見学デー」が各省庁を会場として開催された。厚生労働省社会・援護局の企画として「体験しよう！戦中・戦後の暮らし」のタイトルで、出張展示を行った。

昭和館では、「貸出キット」及び雑誌資料・写真映像資料等を展示した。

- ・開催期間 平成25年8月7日(水)～8日(木)
- ・会場 厚生労働省 講堂
- ・来場者数 1,043人

(4) 第12回昭和館見学作文コンクール

昭和館および巡回特別企画展を見学した小中学生を対象に、見学作文コンクールを実施した。6校の小学校(6年生)と、個人7名(小2～中3)の合計351作品の応募があった。

審査の結果、目黒区立中目黒小学校6年生の深町広輝さんの作品が厚生労働大臣賞に(別掲)、荒川区立尾久第六小学校6年生の細田すず乃さん、越谷市立宮本小学校6年生の西原有希さんの作品が昭和館館長賞に選ばれた。

(5) 第6回昭和館高校生ポスターコンクール

高校生を対象に、昭和館に対する周知と理解を広め、多くの方の来館及びホーム・ページの閲覧を得ることを目的として「第6回昭和館高校生ポスターコンクール」を実施した。全国の高等学校にチラシを送付する等して募集したところ、合計725作品の応募があった。

審査の結果、神戸学院大学附属高等学校 木下郁子さんの作品が、最優秀賞に(作品は別掲)、優秀賞に7作品(作品は別掲)、佳作に13作品が選ばれた。



作文コンクール



ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝える」事業の一環として、紀要『昭和のくらし研究』第12号を平成26年3月に刊行した。(平成15年度から年1回刊行)

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第12号 目次

口 絵

特 集 戦中・戦後の子どもたち ～生活と遊び～

戦時下、子どもメディアの統制・・・子ども文化研究家 野 上 暁

昭和の子どもたちの軍港見学

・・・船の科学館学芸部学芸係長 齋藤 義朗

昭和の大道芸・・・日本大道芸伝承家 光田 憲雄

資料紹介 昭和館オーラルヒストリーに見る

戦中～戦後の子どもたちのくらし

・・・昭和館図書情報部 藤川 和史

昭和館の紙芝居コレクション一覧・・・昭和館学芸部



昭和のくらし研究第12号

3 展示資料の貸出

- 「平和への願い」
 - ・開催期間 ① 平成25年8月1日～8月31日
② 平成25年9月1日～9月13日
 - ・会場 ① せたがや平和資料室
② 烏山区民センター ほか5会場
 - ・貸出資料 写真画像4点

- 「再開～REUNITED ヒロシマの誓い」(演劇)
 - ・開催期間 ① 平成25年8月4日
② 平成25年8月6日
 - ・会場 ① 長崎NBCホール
② 広島アステールプラザ
 - ・貸出資料 写真画像3点

- 「戦災と平和展」
 - ・開催期間 平成25年9月19日～9月23日
 - ・会場 宝山ホール(鹿児島県立文化センター)
地下1階展示室(アートギャラリー)
 - ・貸出資料 映像資料5点

- 「国際平和と核兵器廃絶を求める都市宣言あつぎ20周年」(平和パネル展)
 - ・開催期間 ① 平成25年8月8日～8月15日(パネル展)
② 平成25年8月13日～8月15日(ビデオ放送及び展示)
 - ・会場 厚木市ヤングコミュニティセンター6階
 - ・貸出資料 写真画像10点 映像資料1点

- 「空襲の記録 ー全国主要都市戦災概況図ー」
 - ・開催期間 平成25年8月12日～9月20日
 - ・会場 国立公文書館
 - ・貸出資料 写真画像10点

- 「テレビと音楽～放送から見える昭和～」(コンサート)
 - ・開催期間 平成25年10月12日
 - ・会場 東京芸術大学奉楽堂
 - ・貸出資料 写真画像4点 映像資料5点

○ 「戦後復興を支えた地図と測量」

- ・開催期間 平成26年3月11日～6月29日
- ・会場 地図と測量の科学館（国土地理院構内）
- ・貸出資料 写真画像5点

上記のほか、テレビ・ラジオ番組、教科書副読本、雑誌など製作のための貸出を行った。

4 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(平成26年3月31日現在。50音順、敬称略)

委員長	宮 脇 岑 生	(元国立国会図書館副館長)
委員	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学教授)
〃	石 橋 昌 雄	(板橋区立板橋第十小学校校長)
〃	上 野 憲 示	(文星芸術大学学長)
〃	加 納 正 弘	(元厚生省大臣官房審議官)
〃	北 原 進	(立正大学名誉教授)
〃	鈴 木 淳	(東京大学准教授)
〃	花 輪 隆 昭	(元昭和館館長)
〃	松 井 かおる	(江戸東京たてもの園学芸員)

5 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに13回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(平成26年3月31日現在。順不同・敬称略)

委員長	坂 卷 熙	(淑徳大学名誉教授)
委員	佐 藤 俊 一	(豊島区立千川中学校教諭)
〃	波多野 澄 雄	(筑波大学附属図書館長)
〃	南 砂	(読売新聞社編成局編集委員)
〃	岸 本 葉 子	(エッセイスト)
〃	池 田 維	(公益財団法人交流協会顧問)
〃	國 松 善 次	(一般財団法人滋賀県遺族会顧問)
〃	多 田 宏	(一般社団法人シルバーサービス振興会理事長)

6 インターンシップ

飯田橋公共職業安定所（ハローワーク飯田橋）からの依頼により、高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ（就業体験）」を実施し、11月12日（火）～14日（木）まで、東京都立新島高等学校（東京都新島村）の生徒1名を受入れ、職員の指導の下、当館の業務を体験させた。

7 小・中学校用展示案内DVDの配布

小・中学校等の社会科見学及び修学旅行等の機会を据え、来館促進を一層図るため、当館の事業内容をわかりやすく説明した展示案内DVDを見学予定の希望校に配布しており、平成25年度は小学校158校に配布した。



展示案内DVD

8 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、平和祈念展示資料館、しょうけい館の事業等の連携に取り組んでいる。

第4回会議準備会を5月10日に開催

第4回会議を6月12日に開催

第5回会議を11月15日に開催

〔関係機関：厚生労働省援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館〕

② 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」を始めて実施

開催期間：平成25年7月20日（土）～9月1日（日）

参加者数：1,032人

③ 「シベリア抑留を描く～二人の画家展」を開催

開催期間：平成25年9月12日（木）～9月16日（月）

主催：平和祈念展示資料館

協力：昭和館、しょうけい館

昭和館では、同時期にシベリア等、引き揚げに関する映像の特別上映を行った。

④ 巡回特別企画展の相互協力

- ・熊本県における巡回特別企画展においては、同時期、同地域で平和祈念展示資料館の巡回展等を開催し、広報活動等の連携の強化に努めた。
- ・栃木県においては、ブースを設けて、平和祈念展示資料館、しょうけい館の紹介パネルとポスターを掲示する等の連携を図った。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を後世に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 特別企画展

「知ってるかな？戦中の暮らし～子どもたちの一日～」

戦中の家庭での生活、学校での生活、遊びなどはどのようなものだったのか。子どもたちはどのようなことを感じ、考えていたのか。当館が所蔵する16年から20年までの日記を中心にして、戦中のある一日を再現し、それにまつわる実物、写真、図解、映像などを交えながら、戦争を知らない世代の方々、子どもたちに戦中の子どもたちの生活を知ってもらおうとともに、終戦を迎えた時の子どもたちの思いについてもふれ、戦争に翻弄された子どもたちの姿を紹介した。

開催期間：平成25年7月27日（土）～9月1日（日）

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

<展示構成>

プロローグ

I 一日のはじまり

1. おはようございます
2. お手伝い
3. 神社への参拝
4. 朝ごはん

II ぼくたち、わたしたちの国民学校 ～少国民として

1. 登校
2. 泰安殿に敬礼
3. 朝礼
4. ラジオ体操
5. 教育勅語
6. 国民学校での授業
7. 学校での配給
8. 軍人援護週間
9. 防空訓練

III 学校から帰ってきて

1. 帰宅途中で千人針
2. 隣組の活動、防空訓練



- | | | |
|-----------|---------------|------------|
| 3. 空襲に備えて | 4. おじさんのお見送り | 5. 配給日 |
| 6. おでかけ | 7. お父さんからのお手紙 | 8. 遊び |
| 9. お手伝い | 10. 夕ごはん | 11. ラジオを聞く |
| 12. 銭湯へ | 13. おやすみなさい | |

IV エピローグ

1. 東京大空襲～空襲が激しくなって
2. 戦争が終わった～昭和20年8月15日
3. 今までの教えが崩れ去って

来場者数：10,414人（約325人／1日）

<イベント>

1 「学芸員による展示解説」 特別企画展開場

期 日：8月3日（土）
 会 場：特別企画展会場
 参加者数：16人

2 「戦中・戦後の体験を伝える会」

期 日：8月11日（日）
 会 場：1階ニュースシアター会場
 参加者数：89人

3 「アニメ上映会」

期 日：8月24日（土）
 会 場：1階ニュースシアター会場
 上映作品：「対馬丸～さよなら沖縄」「チョッちゃん物語」
 参加者数：107人

4 「クイズラリー」

期 日：8月24日（土）
 会 場：全館
 参加者数：155人

2 特別企画展

「夢と希望と困難と～昭和の働く女性」

大正末期から昭和の初期にかけて。「職業婦人」の活躍など女性の就業者数は時代とともに増加していく。しかし、日中戦争が始まると出征した男性に代わり女性はさらに多様な職種を担わざるを得ず、家事労働や国策による動員も加わり過重な負担となっていた。戦後も働く女性の労苦は続かなか、地位向上にむけた動きが進み、次第に様々な分野で女性の社会進出がみられるようになる。

本展では、戦中・戦後の家庭や社会にでて「働く女性」に焦点をあて、その時代を生きた女性の夢や希望、様々な困難を紹介した。

開催期間：平成26年3月15日（土）～5月11日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

<展示構成>

プロローグ

- I 戦時下の女性たち
 - 1. たすきをかけて
～銃後のつとめ～
 - 2. 男性に代わって
 - 3. 戦時下を支える

- II 混乱期を生き抜いて
 - 1. 戦争が終わって
 - 2. 新制度の確立
 - 3. 様々な女性職種

- III 社会進出への新しい展開
 - 1. 生活環境の変化
 - 2. 職種の広がりと共に働き
の増加

テーマ展示 女性のよそおい

来場者数：31,165人
(約611人/1日)



<イベント>

- 1 女性弁士による無声映画上映会
期 日：3月30日（日）
会 場：1階ニュースシアター
上映作品：「虚栄は地獄」大正13年（1924）制作、
「子宝騒動」昭和10年（1935）制作
参加者数：111人
- 2 昭和体験イベント
大道芸や飴細工の実演、昔の遊びなどを中心としたイベントを行う。
期 日：4月5日（土）・6日（日）
会 場：2階広場
参加者数：1,617人
- 3 展示解説
学芸員による展示解説
期 日：3月29日（土）・4月26日（土）
会 場：3階 特別企画展会場
参加者数：36人

3 「昭和の日」記念イベントの開催

「昭和の日（4月29日）」を中心として、記念イベントを開催した。

- 1 「常設展示室」の無料入場
期 日：昭和の日の4月29日（木）
来場者数：449人
- 2 「昭和の遊び」の催し（特別企画展のイベントとして）
水ヨーヨー釣り、メンコやけん玉、紙芝居の実演など。
期 日：平成22年5月3日（月）～5日（水）
会 場：2階広場
来場者数：2,021人
- 3 「懐かしのニュースシアター」特別上映
（昭和館制作オリジナル作品「灼熱の炎の中で～空襲と人々～」
を併映）
期 日：平成25年4月27日（土）～5月3日（金）
会 場：1階ニュースシアター
来場者数：3,538人

4 写真展

「GHQカメラマンが見た戦後の日本 —復興にむけて働く人びと—」

開催期間：平成25年11月1日（金）～ 12月23日（月）

会 場：昭和館2階広場

展示内容：GHQカメラマンであったディミトリー・ボリアが撮影した、戦後復興の働く人々の様子や農漁村での作業風景などを写真で紹介した。



来場者数：19,901人
（約433人/1日）

GHQカメラマンが見た
戦後の日本
—復興にむけて働く人びと—

平成25年 11/1(金) ▶ 12/23(月・祝)

会 場：昭和館2階ひろば
開館時間：10:00～17:30(入館は17:00まで)
休 館 日：毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)

入場無料

5 写真展

「さくら満開 —絵はがきと写真にみる—」

開催期間：平成26年3月21日（金）～4月13日（日）

会 場：昭和館2階広場

展示内容：戦前から戦後の各地の桜やお花見をする人びとの様子を、当館が収蔵している絵はがきや写真、写真ニュースで紹介し、桜や春をテーマとしたSPレコードの音源を会場で放送した。

来場者数：19,968人
(約868人/1日)



6 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

平成25年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

回数	テーマ	期間
第43回	子どもも楽しむSPレコード	平成25年 3月 5日（火） ～ 5月12日（日）
第44回	写真新聞ニュースに見る宇宙の夢	平成25年 5月14日（火） ～ 7月 7日（日）

第45回	第5回「昭和館高校生ポスターコンクール」入賞作品展	平成25年 7月 9日 (火) ～ 9月 1日 (日)
第46回	昭和16年の大運動会 (厚生体育大会)	平成25年 9月 3日 (火) ～ 10月 27日 (日)
第47回	甦る 東京オリンピック	平成25年 10月 29日 (火) ～ 12月 27日 (金)
第48回	戦前～戦後の「お正月」と「雛祭り」	平成26年 1月 5日 (日) ～ 3月 9日 (日)
第49回	戦中・戦後の東京歌舞伎座	平成26年 3月 11日 (火) ～ 5月 11日 (日)

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数

昭和館入場者状況の推移(平成11年度～25年度)

(参考)

	常設展有料					常設展無料	合計	映像・音響室	図書室	特別企画展	ニュースアター	総計
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっとパス	小計							
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	90,836	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	52,616	2,914	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	58,965	3,610	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	52,930	4,016	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	54,240	5,235	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	60,164	5,592	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	62,386	6,265	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	56,830	6,363	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	57,975	7,605	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	58,561	6,082	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	54,685	6,059	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	53,834	5,194	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	47,629	4,868	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	48,065	5,206	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	50,693	6,284	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295
合計	460,192	42,638	347,824	9,755	860,409	75,293	935,702	490,178	289,488	656,030	1,443,317	3,814,715

2 平成25年度利用者実績

(単位：人)

	常設 展示室	映像・ 音響室	図書室	ニューズ シアター	特別 企画展等	合計	特別企画展等内訳
平成25年 4月	2,678	1,353	1,137	10,808	9,563	25,539	4/1 (3/20~4/14) 写真展期間 4/1 (3/16~) 特別企画展期間
5月	4,253	2,121	1,629	10,973	4,818	23,794	~ 5/12 特別企画展期間 5/26 紙芝居定期上演会
6月	3,369	1,875	1,191	6,524	0	12,959	
7月	2,768	1,852	1,297	6,295	916	13,128	7/20~ 3館スタンプラリー 7/27~ 特別企画展期間 7/28 紙芝居定期上演会
8月	6,275	2,800	2,173	12,335	10,473	34,056	~ 9/1 3館スタンプラリー ~ 9/1 特別企画展期間
9月	2,306	1,447	1,124	5,659	292	10,828	9/22 紙芝居定期上演会
10月	3,822	2,071	1,471	6,764	6,575	20,703	10/2~ 10/14 熊本県巡回特別企画展期間
11月	6,933	4,143	2,505	22,743	11,078	47,402	11/1~ 写真展期間 11/24 紙芝居定期上演会
12月	7,904	4,887	2,995	19,630	8,919	44,335	~12/23 写真展期間
平成25年 1月	7,147	4,604	3,270	7,639	2,153	24,813	1/26~ 栃木県巡回特別企画展期間 1/26 紙芝居定期上演会
2月	6,909	4,074	2,646	7,991	1,288	22,908	~2/3 栃木県巡回特別企画展期間
3月	2,613	1,426	575	8,864	12,352	25,830	3/15~3/31 (5/11) 特別企画展期間 3/21~3/31 (4/13) 写真展期間 3/23 紙芝居定期上演会
合計	56,977	32,653	22,013	126,225	68,427	306,295	

3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合 (%)
56,977人	有料 50,693人	小・中学生	24,932人	43.7
		高・大学生	3,173人	5.5
		一般	22,588人	39.6
	無料 6,284人	小・中学生 (親子割引)	1,357人	2.3
		視察者等	2,836人	5.0
		心身障害者	1,669人	2.9
		未就学児	422人	0.7

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合 (%)
525校	小学校	309校	58.8
	中学校	155校	29.5
	高校	22校	4.1
	専門学校	15校	2.8
	大学	24校	4.5

4 来館団体御芳名

(敬称略)

月日	団体名	人数
5月9日	京華商業高等学校2年生	168名
5月10日	苫小牧市立光洋中学校3年生	154名
5月24日	三郷北高等学校2年生	93名
6月5日	江戸川区立南葛西第二小学校6年生	106名
〃	東京学芸大学附属小金井小学校6年生	159名
6月6日	岡崎市立滝海中学校3年生	95名
6月7日	共立女子高等学校1年生	111名
6月14日	府中市立住吉小学校6年生	96名
7月3日	長岡市立希望ヶ丘小学校6年生	94名
7月4日	羽生市立手子林小学校6年生	94名
8月15日	京都府全国戦没者追悼式参列遺族団	148名
8月28日	川崎市立南河原中学校2年生	122名
9月3日	川崎市立古川小学校6年生	110名
10月1日	飯田市立丸山小学校6年生	135名
10月4日	足立防火防災協会	98名
10月8日	小金井市立小金井第四小学校6年生	93名
10月10日	神栖市立大野原小学校6年生	103名
10月24日	北海道白老東高等学校2年生	122名
〃	伊東市立大池小学校6年生	114名
10月29日	青梅市立青梅第五小学校6年生	100名
11月7日	静岡市立賤機南小学校6年生	97名
11月8日	越谷市立宮本小学校6年生	100名
11月12日	小金井市立前原小学校6年生	100名
11月14日	佐倉市立根郷小学校6年生	120名
〃	桐蔭学園小学部6年生	148名
〃	世田谷区立京西小学校4年生	97名
11月15日	江戸川区立宇喜田小学校6年生	100名
11月19日	北区立王子小学校6年生	116名
〃	江東区立豊洲北小学校6年生	169名
〃	国分寺市立第三小学校6年生	125名
〃	品川区立伊藤学園6年生	113名
11月21日	町田市立南つくし野小学校6年生	152名
〃	私立星槎高等学校2年生	103名
11月22日	練馬区立富士見台小学校6年生	106名
〃	小山市立間々田小学校6年生	101名
〃	墨田区立押上小学校6年生	110名
〃	江戸川区立瑞江小学校6年生	97名
〃	千葉市立新宿小学校6年生	161名
11月26日	千葉市立打瀬小学校6年生	155名
11月28日	足立区立東綾瀬中学校1年生	141名
〃	葛飾区立道上小学校6年生	138名
11月29日	練馬区立石神井小学校6年生	96名
〃	世田谷区立千歳台小学校6年生	104名
12月3日	江東区立小名木川小学校6年生	117名
〃	江戸川区立第五葛西小学校6年生	91名
〃	江東区立第一大島小学校6年生	112名
12月5日	立川市立上砂川小学校6年生	116名
〃	小平市立小平第十小学校6年生	100名
〃	足立区立東加平小学校6年生	114名
〃	船橋市立八木が谷小学校6年生	121名
〃	足立区立東伊興小学校6年生	115名
12月6日	江戸川区立葛西小学校6年生	150名
〃	船橋市立夏見台小学校6年生	126名
〃	朝霞市立朝霞第五小学校6年生	180名
〃	春日部市立幸松小学校6年生	92名
〃	北本市立北小学校6年生	95名
12月10日	足立区立栗原小学校6年生	92名

月日	団体名	人数
12月10日	江戸川区立南葛西小学校6年生	155名
〃	新座市立野火止小学校6年生	120名
12月12日	大田区立東糶谷小学校6年生	94名
〃	板橋区立紅梅小学校6年生	119名
12月13日	墨田区立両国中学校2年生	97名
12月17日	多摩市立多摩第一小学校6年生	105名
〃	川崎市立長沢小学校6年生	117名
〃	横浜市立鶴見小学校6年生	120名
12月20日	都立富士高等学校附属中学校3年生	122名
〃	江東区立枝川小学校6年生	114名
1月7日	東村山市立八坂小学校6年生	113名
1月10日	横浜市立洋光台第一小学校6年生	119名
〃	川崎市立栗木台小学校6年生	151名
1月15日	横浜市立神橋小学校6年生	95名
1月16日	白井市立桜台小学校6年生	106名
〃	藤沢市立高谷小学校6年生	113名
〃	横浜市立瀬谷小学校6年生	144名
〃	足立区立鹿浜第一小学校6年生	137名
1月17日	横浜市立本郷台小学校6年生	92名
〃	川崎市立山田小学校6年生	110名
〃	小田原市立富水小学校6年生	122名
1月21日	練馬区立谷原小学校6年生	101名
〃	江戸川区立鎌田小学校6年生	119名
〃	品川区立第二延山小学校6年生	111名
〃	墨田区立両国小学校6年生	92名
〃	横浜市立本宿小学校6年生	117名
1月22日	八潮市立大原小学校6年生	103名
〃	成田市立成田小学校6年生	120名
1月23日	守谷市立松ヶ谷小学校6年生	105名
〃	藤沢市立鶴沼小学校6年生	126名
〃	町田市立藤の台小学校6年生	110名
〃	草加市立川柳小学校6年生	115名
1月28日	足立区立花保小学校6年生	106名
1月30日	江東区立第二砂町小学校6年生	94名
1月31日	江戸川区立第二葛西小学校6年生	119名
〃	東久留米市立第九小学校6年生	96名
2月4日	川口市立差間小学校6年生	111名
2月7日	北本市立東小学校6年生	111名
〃	豊島区立南池袋小学校6年生	91名
〃	習志野市立大久保東小学校6年生	111名
〃	江戸川区立小松川第二小学校6年生	134名
〃	市川市立幸小学校6年生	96名
〃	静岡市立長田北小学校6年生	94名
2月13日	川崎市立千代ヶ丘小学校6年生	113名
〃	墨田区立第三吾嬬小学校6年生	98名
2月14日	川崎市立東生田小学校6年生	93名
2月18日	武蔵村山市立第七小学校6年生	93名
〃	東京学芸大学附属世田谷小学校6年生	110名
〃	暁星小学校3年生	120名
〃	市川市立新井小学校6年生	163名
2月20日	横浜市立西寺尾第二小学校6年生	101名
〃	小平市立小平第五小学校6年生	91名
2月21日	横浜市立都筑小学校6年生	162名
2月25日	横浜市立末吉小学校6年生	152名
2月26日	吉川市立関小学校6年生	142名
2月27日	川崎市立川崎小学校6年生	113名
〃	鎌倉市清泉小学校6年生	120名

※紙面の都合により、90名以上で来館した団体のみを掲載しております。

5 第12回昭和館見学作文コンクール・厚生労働大臣賞受賞作品

「戦争で苦しんだ人々のために」

東京都目黒区立中目黒小学校 6年 深町 広輝

昭和館の見学をして改めて「戦争はしてはならない」ということと、「戦時中や戦後に苦労しながらも生き抜いた人々がいたからこそ今の自分がいる」ということを感じました。

その理由はたとえばまず第一ブースの国民への統制です。国民は金属をとられたり日用品が配給制になり苦しい生活を強いられても「ほしがりません、勝つまでは」を合言葉に日本の勝ちを信じて協力したからです。このことから、この頃の国民は自分を犠牲にしてまで戦争にした我慢する心がすごいなあと思いました。

また子供も中高生は勉強を中断してまで「学徒勤労働員」により慣れない機械を使って労働をし、縁故先のない現在の小学生位の年齢の者は食料も少ない中、親元を離れて疎開をするなどして、ぼくは苦しい生活の中で必死にたえているのがすごいと思いました。

そして戦後。夫を戦争で亡くした妻は子供を生きかすために父の代わりに働こうとしますが内職などしかできず収入は減るなど苦労しましたがそれでも家の大黒柱の代わりとして精を出しました。このことからぼくは残された大人(母)は自分を犠牲にしてまで子供を立派な大人にしようという強い気持ちがあったのだと思いました。

一方子供も孤児となって一人で生きていかざるを得なくなったり、父を亡くしたという者もたくさんいましたが、品不足の中工夫して道具を作り遊んだり、国際連合のユニセフなどの支援を受けながら、生き生きと生きていました。ぼくはこのことから戦後の時代でも子供達は前向きに生きていたのだと思いました。

このように昭和館を見学したりその後の学習により思いました。

例え戦争を推進するような人達が存在しても、戦争は罪のない人達まで犠牲にし不幸にするものだから絶対にしてはならないということを後の人にどんどん伝えていきたいと思いました。

また、戦争によって勉強などの自分のやりたいことができなくなり苦しんでいた人達がいるということを理解しながら勉強をしたりして、「今」を生きていこうと思いました。

6 第6回昭和館高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介 <入賞作品（優秀賞以上）>



最優秀賞
神戸学院大学附属高等学校
木下 郁子
昭和の働く子供たち



優秀賞
小松原女子高等学校
植村 水琴
昭和の暮らし



優秀賞
兵庫県立明石高等学校
下川 奈月
昭和のロマン



優秀賞
富山第一高等学校
中野 夏帆
昭和の遊び



優秀賞
兵庫県立明石高等学校
小井 風花
昭和の家族、そして思い出



優秀賞
東洋大学附属牛久高等学校
奥山 祥太
昭和の道具



優秀賞
小松原女子高等学校
永谷 怜美
昭和の夏



優秀賞
岐阜県立岐阜総合学園高等学校
末松 颯
昭和の遊び

7 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもと、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

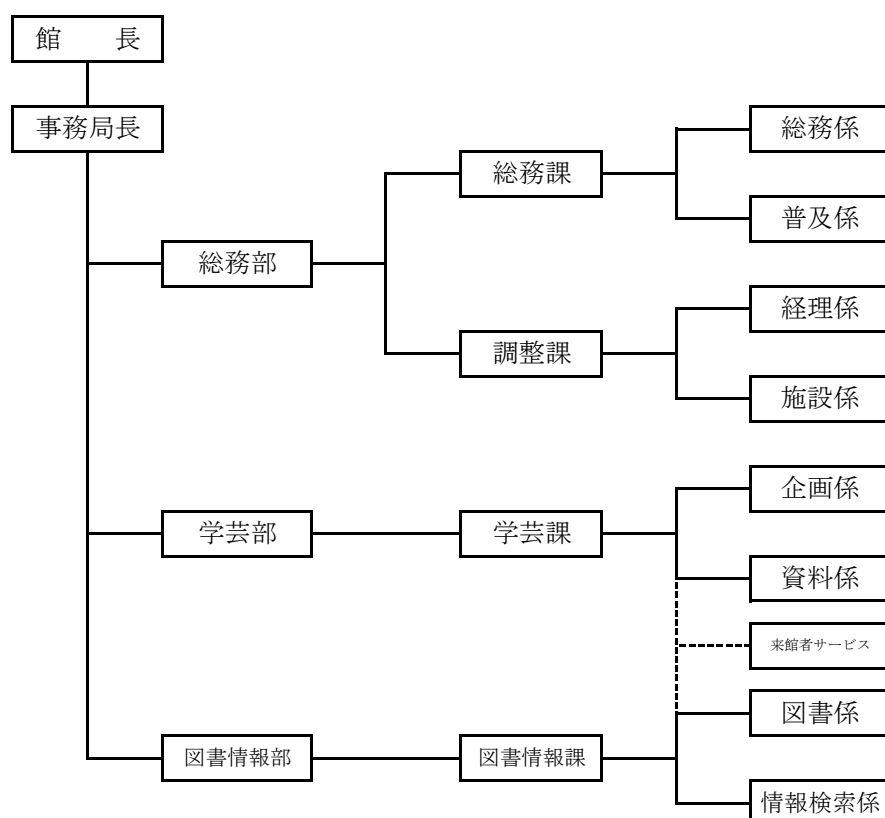
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施 設

面 積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備 考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組 織



8 平成25年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

実物資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
東京都	利根会
〃	柳内学級クラス会
神奈川県	川崎市立高津高等学校

実物資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
栃木県	猪口貞夫
埼玉県	林弘二
〃	本多和子
千葉県	蒲生郷昭
〃	小林和子
〃	園田由紀子
〃	高山恵子
〃	堀井宏子
東京都	足助勝
〃	阿部素子
〃	井田寿子
〃	市川智意子
〃	伊藤尚子
〃	宇高ちさ
〃	大西路男
〃	岡田義明
〃	加藤光世
〃	合田之久
〃	斉藤百合子
〃	阪本亮二
〃	佐竹理
〃	佐藤真也
〃	関根孝子
〃	塚本千代子
〃	長尾多津子
〃	中山裕
〃	西進
〃	西堀明男
〃	西山一美

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
東京都	野口欣一
〃	野村和子
〃	花村睦子
〃	本庄菊枝
〃	松本和子
〃	三久保和彦
〃	山崎志満子
〃	山田裕四
〃	吉田宏
神奈川県	荒井文子
〃	工藤貞子
〃	島岡綾子
〃	武部一之
〃	中島孝
〃	森泉利矢子
和歌山県	増元孝子
京都府	井上百々枝
〃	松尾弘
兵庫県	鞍本恵美子
〃	小林みゑ子
〃	田中美沙子
山口県	湊典子
佐賀県	松尾美津子
熊本県	五島久義
〃	佐伯英雄
〃	永池悠紀子
〃	長嶋鶴雄
〃	山田宏

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	釧路市立博物館
〃	小樽市総合博物館
〃	北海道開拓の村
青森県	青森県近代文学館
岩手県	盛岡市先人記念館
〃	遠野市立博物館
秋田県	秋田県立博物館
〃	日本ラジオ歌謡研究会
宮城県	東北歴史博物館
〃	仙台市歴史民俗資料館
山形県	土門拳記念館
〃	米沢市上杉博物館
福島県	福島県立博物館
〃	福島県歴史資料館
〃	白河市歴史民俗資料館
栃木県	國學院大學栃木短期大学史学会
〃	栃木県遺族連合会
茨城県	茨城県立歴史館
埼玉県	川越市立博物館
〃	埼玉県平和資料館
〃	塔山小21年会
〃	日本大学広報部大学史編纂課
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
〃	蕨市立歴史民俗資料館
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	国立歴史民俗博物館
〃	城西国際大学水田美術館
〃	女性の日記から学ぶ会
〃	市立市川歴史博物館
〃	野田市郷土博物館
〃	船橋市郷土資料館
東京都	JCIIフォトサロン
〃	NHK放送博物館
〃	昭島市教育委員会生涯学習部社会教育課
〃	荒川ふるさと文化館
〃	板橋区教育委員会生涯学習課文化財係
〃	板橋区立郷土資料館
〃	出光美術館
〃	海原会
〃	大田区立郷土博物館
〃	お札と切手の博物館
〃	「表参道が燃えた日」編集委員会
〃	偕行社
〃	家具の博物館
〃	株式会社潮書房光人社
〃	株式会社文藝春秋
〃	株式会社吉川弘文館
〃	北区飛鳥山博物館
〃	北区教育委員会生涯学習推進課
〃	宮内庁書陵部

都道府県	寄贈者名
東京都	厚生労働省社会・援護局業務課調査資料室
〃	古賀政男音楽文化振興財団古賀政男音楽博物館
〃	國學院大學研究開発推進機構学術資料館神道資料館部門
〃	國學院大學大学院日本史学専攻大学院
〃	昭和女子大学光葉博物館
〃	水交会
〃	杉並区立郷土博物館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	政治経済研究所東京大空襲・戦災資料センター
〃	世田谷区立郷土資料館
〃	全国LPガス協会
〃	全国疎開学童連絡協議会
〃	総務省大臣官房総務課管理室
〃	大正大学 学芸員課程
〃	台東区教育委員会
〃	台東区立下町風俗資料館
〃	たばこと塩の博物館
〃	多摩市文化振興財団 パルテノン多摩
〃	玉川大学教育博物館
〃	中央史学会
〃	中国残留孤児援護基金
〃	千代田区立千代田図書館
〃	千代田区立日比谷図書文化館
〃	通信総合博物館
〃	東京都公文書館
〃	東京都三多摩公立博物館協議会
〃	東京都写真美術館
〃	東京都人権啓発センター
〃	東京都図書館協会
〃	東京都博物館協議会
〃	東京都歴史文化財団東京都江戸東京博物館
〃	道具学会事務局
〃	豊島区立郷土資料館
〃	特攻隊戦没者慰霊顕彰会
〃	新島村博物館
〃	日本カメラ博物館
〃	日本郷友連盟
〃	練馬区立石神井公園ふるさと文化館
〃	練馬区文化振興協会
〃	八王子市総合政策部市史編さん室
〃	文化環境研究所
〃	文京ふるさと歴史館
〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
〃	町田市立自由民権資料館
〃	満鉄会
〃	三鷹市山本有三記念館
〃	港区立港郷土資料館
〃	港や書店
〃	民音音楽博物館(民主音楽協会)

都道府県	寄贈者名
東京都	武蔵大学学芸員課程
〃	武蔵野市役所市民部市民活動推進課市民相談係
〃	明治大学史資料センター
〃	明治大学博物館
〃	目黒区めぐろ歴史資料館
〃	野球殿堂博物館
〃	靖國神社社務所
〃	吉田秀雄記念事業財団
〃	わだつみのこえ記念館
神奈川県	JICA海外移住資料館
〃	大磯町郷土資料館
〃	小田原市郷土文化館
〃	小田原城天守閣
〃	神奈川近代文学館
〃	神奈川県立歴史博物館
〃	川崎市市民ミュージアム
〃	川崎市立高津高等学校
〃	城山まちづくりセンター
〃	馬事文化財団 馬の博物館
〃	平塚市博物館
〃	横須賀市総務部総務課
〃	横浜みなと博物館
〃	横浜市史資料室
〃	横浜都市発展記念館
新潟県	新潟市歴史博物館
富山県	富山市郷土博物館
石川県	石川県遺族連合会
〃	石川県立歴史博物館
〃	金沢大学歴史言語文化学系
福井県	福井県立若狭歴史民俗資料館
〃	福井県立歴史博物館
山梨県	富士吉田市教育委員会歴史文化課
長野県	飯田市美術博物館
〃	上田市立博物館
〃	旧制高等学校記念館
〃	北斎館 北斎研究所
〃	松本市立博物館
静岡県	島田市博物館
〃	浜松市博物館
〃	沼津市歴史民俗資料館
〃	焼津市歴史民俗資料館
愛知県	安城市歴史博物館
〃	岡崎市美術博物館
〃	戦争と平和の資料館ピースあいち
〃	名古屋市博物館
〃	半田市立博物館
三重県	鈴鹿市文化振興部文化課
〃	四日市市立博物館
滋賀県	滋賀県平和祈念館
京都府	京丹後市教育委員会 文化財保護課
〃	京都国立博物館
〃	京都市学校歴史博物館

都道府県	寄贈者名
京都府	京都若葉緑の会
〃	舞鶴引揚記念館
〃	立命館大学国際平和ミュージアム
大阪府	往生院民具供養館
〃	大阪歴史博物館
〃	堺市立平和と人権資料館(フェニックス・ミュージアム)
兵庫県	明石市立文化博物館
〃	赤穂市立歴史博物館
奈良県	奈良県立民俗博物館
和歌山県	和歌山県立博物館
鳥取県	鳥取市歴史博物館 やまびこ館
島根県	松江歴史館
岡山県	津山郷土博物館
広島県	広島県立歴史博物館
〃	呉市海事歴史科学館
〃	広島平和文化センター
〃	呉市産業部海事歴史科学館学芸課
〃	日本はきもの博物館・日本玩具博物館
山口県	下関市立考古博物館
〃	周南市美術博物館
〃	中原中也記念館
香川県	高松市役所人権啓発課平和記念係
愛媛県	愛媛県西条市遺族会
〃	愛媛県歴史文化博物館
〃	坂の上の雲ミュージアム
高知県	高知市立自由民権記念館
〃	土佐山内家宝物資料館
福岡県	北九州市立自然史・歴史博物館
〃	太宰府市文化ふれあい館
〃	福岡市総合図書館文学・文書課
〃	福岡市博物館
佐賀県	有田町歴史民俗資料館
〃	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
大分県	大分市歴史資料館
〃	大分県立先哲史料館
宮崎県	みやざき歴史文化館
鹿児島県	鹿児島県歴史資料センター 黎明館
〃	尚古集成館
〃	南九州市教育委員会文化財課(ミュージアム知覧)
沖縄県	浦添市立図書館
〃	沖縄県平和祈念資料館
〃	ひめゆり平和祈念資料館

図書資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
北海道	松岡レイ子
青森県	飛内進
山形県	日野茂男
栃木県	猪口貞夫
茨城県	宮内大輔
埼玉県	青木和哉
〃	菊地正浩
〃	徳永茂
千葉県	蒲生郷昭
〃	小林和子
〃	鈴木陽夫
〃	高山恵子
〃	野上暁
〃	山崎達也
東京都	秋元美子
〃	足助勝
〃	飯島哲夫
〃	石川文子
〃	井田寿子
〃	市川智意子
〃	岩崎清吾
〃	大屋研一
〃	加藤光世
〃	佐藤勝博
〃	佐藤安太

都道府県	寄贈者名
東京都	佐野英子
〃	菅谷雅彦
〃	竹山昭子
〃	田中哲男
〃	長尾多津子
〃	永田公子
〃	中西博三
〃	西山一美
〃	野村和子
〃	平原恒男
〃	堀江優子
〃	松本和子
〃	三久保和彦
〃	持田晃
〃	山崎志満子
神奈川県	新井恵美子
〃	新井文子
〃	井上弘
〃	小野喜代子
〃	佐々木良輔
〃	島岡綾子
〃	竹林久知
〃	武部一之
〃	角井桂子
〃	中川芳一

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	中島孝
〃	夏川英二
富山県	樽井弘和
三重県	津坂治男
京都府	津田壮章
大阪府	福山琢磨
兵庫県	小林みゆ子
〃	南方希弑
香川県	真鍋千恵
熊本県	古庄旨子
〃	五島久義
〃	村上千鶴子

映像・音響資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
福島県	佐藤満
茨城県	住谷登志男
埼玉県	立石勇氣
千葉県	蒲生郷昭
〃	高山恵子

都道府県	寄贈者名
東京都	松本和子
〃	宮内良夫
〃	持田晃
〃	塚本千代子
神奈川県	島岡綾子

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	小林英俊
〃	武部一之
熊本県	上村艶子
〃	永池悠紀子

映像・音響資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
東京都	東京を描く市民の会

昭和館館報 第15号 (平成25年度)

平成26年10月発行

編集発行

昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話 03 (3222) 2577

